

授業科目名	ナラティブ表現法	担当教員	◎宮本真巳、足立智孝
必修	開講年次：1年後期	単位：1単位	授業形態：演習 30 時間

【授業概要】

会話表現と話と文章表現の三側面におけるコミュニケーション能力の向上を目指して、「相手とのずれを埋める」ために「相手の視点を取り合う」というコミュニケーションの原理を学ぶ。

【授業目的・目標】

看護師として健康問題の当事者との援助関係を成立させるとともに、看護師やその他の専門職とのチームワークを確立する上で必要な会話及び文章によるコミュニケーションの基礎について、講義と演習を通じて学ぶ。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|---|---------|
| [01] コミュニケーションの成立条件と感情体験の振り返り（異和感の対自化） | （宮本） |
| [02] 文章表現の意味—文章表現演習 1 | （足立） |
| [03] 感情体験の意識的な表現（自己一致とエモーショナルリテラシー） | （宮本） |
| [04] 文章表現の基本 | （足立） |
| [05] 援助関係の形成とナラティブ・アプローチ（現実的かつ肯定的なストーリーの構築） | （宮本） |
| [06] 文章による感情表現—文章表現演習 2 | （足立） |
| [07] 集団場面におけるコミュニケーション（グループワークと集団力動の理解） | （宮本） |
| [08] 文章表現のルール 1—修飾、句読点、段落分け | （足立） |
| [09] ベイトソン、ミード理論についてのグループ討論 | （宮本） |
| [10] 文章表現のルール 2—適切な単語の使用、漢語と大和言葉 | （足立） |
| [11] コミュニケーション過程における感情体験と振り返り、グループワーク | （宮本・足立） |
| [12] 感情体験の意識的な表現の実践と省察、EQ の測定 | （宮本） |
| [13] 文章骨格と文章読解 | （足立） |
| [14] グループワークと集団力動の実践と分析 | （宮本） |
| [15] レポートの書き方—『アカデミック・スキルズ』を中心に | （足立） |

【教科書】

- 宮本真巳（1995）感性を磨く技法 1—看護場面の再構成，日本看護協会出版会
- 宮本真巳（2006）援助技法としてのプロセスレコード，精神看護出版

【参考書】

- D. ゴールマン（土屋京子訳）（2002）EQ—心の知能指数，講談社
- 加藤典洋（1996）言語表現法講義，岩波書店
- 野口裕二（2002）物語としてのケア—ナラティブアプローチの世界へ，医学書院
- 大野晋（1999）日本語練習帳，岩波書店

【評価方法・評価基準】

課題レポート×3：75%、授業参加リフレクティブレポート：25%

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：教科書に掲載されている事例に目を通しておくこと。

事後学習：授業での学びを日常的なコミュニケーションに生かすように努めること。

【教育目標（必須要素）との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅰ. 教養教育で培う普遍的基礎能力、Ⅱ. 質の高いケアを実践するためのリーダーシップ能力、Ⅴ. 多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅷ. 生涯にわたり継続して専門性を向上させる能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

リフレクティブレポート、及び課題レポートについて授業時にフィードバックを行う。

【備考】

援助関係の形成能力を習得することを学習目標としており、多くの専門科目と関連があるので、この科目で学んだことを各科目の学習に生かすことを心掛けて欲しい。